

## 令和 2年度 行政評価事業別シート

	<b>実計対象</b>	<input type="checkbox"/>	<b>評価対象</b>	<input checked="" type="checkbox"/>	<b>新規</b>	<input type="checkbox"/>	<b>完了事業</b>	<input type="checkbox"/>	<b>ゼロ予算事業</b>	<input type="checkbox"/>	<b>担当者</b>	土屋真由
	<b>全体計画</b>						<b>経費区分</b>		-		<b>内線</b>	245-0407
<b>事務事業名</b>	4313 博物館管理運営事業											
<b>所 属</b>	130500 社会共創部・文化スポーツ課											
<b>施 策</b>	04011900 生涯学習・文化・芸術・歴史を大切にしまちづくりの推進											
<b>予算科目</b>	<b>会計</b>	01 一般会計										
	<b>科目</b>	100604 教育費・社会教育費・博物館費										
	<b>事業</b>	020000 博物館管理運営事業										
<b>事業目的</b>						<b>事業概要・効果</b>						
貴重な文化財を広く展示公開し、市民の学習に資する。 須坂市の歴史、文化財について調査研究を進める。 各種講座等を開催して、生涯学習に対する多種多様な市民ニーズに応える。						資料の収集・保存及び調査研究を行うとともに、特別展をはじめとする展示活動や各種講座・講演会などの事業を推進し、市民の生涯学習の場とする。  2018年1月15日から長期休館している。						

**PLAN-DO**

**年度実績及び予定**

<b>平成27年度 実績</b>	<b>平成28年度 実績</b>
特別展（吉向焼） 入館者数 954人 館外企画展示「須坂きのこ展」 入館者数 907人 スポット展示「猿の根付展」 入館者数 643人 特集展示（堀家の雛人形など） 入館者数 1,042人 干支コレクションアワード 2016猿への参加・投票 全国第1位	特別展（北村方義） 入館者数 782人 特集展（印籠・根付） 入館者数 980人 特集展（堀家の雛人形など） 入館者数 947人 館外企画展示「須坂きのこ展」 入館者数 612人 NHK大河ドラマ関連スポット展示「上杉景勝書状」
<b>平成29年度 実績</b>	<b>平成30年度 実績</b>
特別展（須坂藩14代） 入館者数1,006人 館外企画展示「須坂きのこ展」 入館者数489人 八丁鎧塚まつり 入場者数1,200人 博物館基本計画策定委員会	記念展示「幕末・明治期の須坂」 入館者数4,285人 館外企画展示「須坂きのこ展」 入場者数544人 八丁鎧塚まつり 入場者数1,500人 博物館基本計画策定委員会
<b>平成31年度 実績</b>	<b>令和 2年度 予定</b>
館外企画展「能面多種多様」 入館者数1,264人 館外企画展示「須坂きのこ展」 入場者数467人 館外講座「臥竜山たんけん」 収蔵品整理	「機能分散型総合博物館」構築 館外講座「臥竜山たんけん」 収蔵品整理

指標名	年間入館者数					単位	人
算式	年0.5%の増						
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度		
目標値	目標	5,714	5,742	5,771	5,800		5,829
	実績	4,073	2,894	0	0		
指標選定の理由	常設展示の充実を図るとともに、特別展示等を行い、市民が歴史・文化・芸術に親しむ機会を提供する。						
最終年度目標の根拠	平成26年度実績値（5,657人）より、各年0.5%ずつの増						
指標名						単位	人
算式							
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度		
目標値	目標						
	実績						
指標選定の理由							
最終年度目標の根拠							
指標名						単位	人
算式							
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度		
目標値	目標						
	実績						
指標選定の理由							
最終年度目標の根拠							

事業費

(単位：千円)

		平成31年度 決 算	令和2年度 予 算
事業費		13,648	15,395
特定財源	国庫支出金	0	0
	都道府県支出金	0	0
	地方債	0	0
	その他	74	10
一般財源		13,574	15,385
人員数(人)	正規職員	0.8	0.8
	嘱託職員	1.7	1.7
	臨時職員	1.2	1.2
人員コスト	正規職員	5,812.0	5,812.0
	嘱託職員	4,809.3	4,809.3
	臨時職員	1,557.6	1,557.6
	計	12,178.9	12,178.9
市民一人当たりの経費		0.5	0.5
総額		25,826.9	27,573.9

(単位：千円)

平成31年度決算 事業費の内訳		
主な節	金額	内容
8節 報償費	199	講師謝礼50、展示品借用・指導等謝礼100、委員等謝礼49
11節 需用費	1,396	展示等消耗品費658、燃料費60、印刷製本費451、光熱水費203、修繕料15ほか
13節 委託費	758	警備保障委託393、大型製系模型等解体運搬365
15節 工事請負費	0	
19節 負担金補助及び交付金	153	博物館協議会負担金（全国・北信越・県）23、きのこ展共催負担金130
その他	11,142	報酬5,672、共済費1,274、賃金3,262、旅費11、役務費767、使用料及び賃借料156

(単位：千円)

令和 2年度当初予算 事業費の内訳		
主な節	金額	内容
7節 報償費	305	講演会・講座等講師謝礼190、収蔵品整理指導等謝礼115
10節 需用費	1,446	展示等消耗品700、ポスター・チラシ等印刷250 ほか
12節 委託費	198	館内警備保障委託198
14節 工事請負費	0	
18節 負担金補助及び交付金	153	博物館協議会負担金（全国・北信越・県）23、きのこ展共催負担金130
その他	13,293	報酬4,072、給料4,890、職員手当1,499、共済費1,556、旅費196、役務費921、使用料及び賃借料152、公課費7

CHECK

個別評価		
項目	評価観点	評価内容
必要性	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民の生命・財産を守るため市が実施することが必要不可欠な事業であるか</li> <li>行政内部の管理運営上必要な事業であるか</li> <li>市が主体となり実施すべき事業か</li> <li>法的な根拠や公的関与の妥当性はあるか</li> <li>目的は結果（施策の目指す理想）に結びついているか</li> </ul>	高い
評価コメント	市民が歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に親しむこと、また、その生涯にわたる学習に資することを目的に、講座活動等を開催している。	
有効性	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業の成果は上がっているか</li> <li>目標に対する達成度は十分か</li> <li>市民生活上の課題解決に貢献しているか</li> <li>行政内部の管理上の課題解決に貢献しているか</li> <li>事業の目的が達成できるような事業内容になっているか</li> </ul>	普通
評価コメント	博物館の収蔵品整理・台帳化を進めることにより、市内の歴史・文化を再発見し、今後の博物館展示に活かすことができた。また、館外講座「第50回記念 須坂きのこ展」や「臥竜山たんけん」を開催し、市民が地域についての理解と関心を深めることができた。	
効率性	<ul style="list-style-type: none"> <li>成果を落とさずにコストを削減する方法はあるか</li> <li>効率性向上に努めているか</li> <li>使用料などの受益者負担や補助対象事業の範囲など、財源確保の余地はないか</li> </ul>	変わらない
評価コメント	博物館ボランティアの協力を得て、糸取り体験や昔の道具解説等の収蔵品活用を展開している。	

振り返り（決算年度の取組み課題）

- ・ 休館中であるが、地域の歴史・文化の概観を学ぶ拠点として市民の歴史・文化学習に資するため、館外展示・講座等を開催し情報発信に努めた。
- ・ 開館50年を経過し老朽化した博物館について、昨年策定した基本計画を元に「機能分散型総合博物館」構築を進めた。

**ACTION**

**1次評価**

**2次評価**

次年度以降の方向性	抜本的見直し（拡大）	次年度以降の方向性	抜本的見直し（拡大）
総合評価コメント		2次評価コメント	
機能分散型総合博物館の構築及びまるごと博物館構想の推進が課題。収蔵品整理の進捗を図る。		・機能分散型総合博物館の構築をすすめ、まるごと博物館構想の推進を図る。	

**外部評価**

次年度以降の方向性	
外部評価コメント	